社会科学研究所

Ⅰ　研究水準　.....　研究 19-2

Ⅱ　質の向上度　.....　研究 19-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の場合 46 名という規模の教員により、平成 16 年度以降の４年間に 500 回の研究会、19 回のシンポジウム（うち８回は国際会議）を開催し、査読付専門雑誌 Social Science Japan Journal（年２回刊行）のほか９種類の刊行物を出版し、さらに４年間に教員一名当たりで学術書 6.8 件、学術論文 12.9 件、国際学会・会議での報告 2.6 回という成果を上げている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）が年平均 14 件（9,817 万円）、採択率が年平均 58.1％であり、寄付金・受託研究費の獲得にも努めることなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「附属日本社会研究情報センターにおける全国共同利用機能」のうち、日本社会研究情報センターの活動における、SSJ データアーカイブは、他の機関が行った調査のデータを寄託の形で大量に集め、多くのデータを公開して計量的社会科学研究のための基盤構築機能を果たしていることは、優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、社会科学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、社会科学研究所が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した成果としてフランス政治哲学に関する研究、日本社会の能力に関する研究が挙げられる。社会、経済、文化面では、卓越した成果として、日本電力業に関する研究が挙げられる。この研究業績は、実証的・理論的研究を踏まえて政策的提言を導き出し、政策に影響を及ぼしている。さらに、過去４年間の研究成果によって作品８篇が９件の受賞という形で社会的評価を得ている。これらの状況は、優れた成果である。

以上の点について、社会科学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、社会科学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。